

2020年度 GTR 成果報告会

実施日:2021年1月8日(金)

実施方法:オンライン開催(ポスター発表は LINC Biz、講演は Zoom の利用を予定)

プログラム(暫定)

9:30-9:45	開会挨拶
9:45-10:30	GTR Research Award 受賞学生による講演(※1)
10:30-10:45	GTR 生による活動報告
10:45-11:00	休憩
11:00-12:00	GTR 生によるポスター発表(前半)
12:00-13:30	休憩
13:30-14:30	GTR 生によるポスター発表(後半)
14:30-14:45	休憩
14:45-15:55	参画教員によるシーズ紹介(※2)
15:55-16:30	休憩
16:30-17:00	GTR アドバイザリーボード講演 Prof. Dr. Ueli Grossniklaus (University of Zurich)
17:00-17:30	ポスター賞授賞式・閉会の挨拶

※1 GTR Research Award 受賞者

鵜飼 修作 (工学研究科 博士後期課程 2年)

竹本 悠人 (創薬科学研究科 博士後期課程 1年)

Sin Gwang Chol (理学研究科(生命理学) 博士後期課程 1年)

※2 参画教員によるシーズ紹介の講演及び講演者の情報

田中 健太郎 (理学研究科・教授)

「流動相に作る分子空間」

西山 朋子 (理学研究科・准教授)

「染色体構築の一分子レベルからの理解」

浅沼 浩之 (工学研究科・教授)

「(人工)核酸に不可能はない！」

上口 美弥子 (生物機能開発利用研究センター・教授)

「植物ホルモン、ジベレリンの受容・代謝・輸送—その構造的理解への試み」

澁谷 正俊（創薬科学研究科・講師）

「保護基に頼らない非天然 α -アミノ酸の簡便合成法」

土屋 雄一郎（ITbM・特任准教授）

「寄生植物ストライガの撲滅を目指した化学と生物の融合研究」



講演者の情報

氏名・役職	研究テーマ	キーワード	自由記載欄 (提供できる(してほしい)技術や知識、融合研究してみたい研究分野等)	HP
田中 健太郎 教授	分子間の相互作用から生まれる分子組織機能の創成	超分子、ソフトマテリアル、分子自己組織化、金属錯体、液晶、分子空間、分子認識、トポロジカル不斉	生体分子を含む分子組織に関する知識の提供	HP
西山 朋子 准教授	クロマチン高次構造解析研究	初期発生 クロマチン構造	技術提供:一分子イメージング、細胞周期解析系、欲しい技術:次世代シーケンス技術、数理モデル	HP
浅沼 浩之 教授	非環状型人工核酸の設計と応用	核酸化学、生物化学、光化学、高分子化学、有機化学	RNA イメージング(提供技術)、高輝度蛍光色素(欲しい技術)	HP
上口 美弥子 教授	植物ホルモン、ジベレリンのシグナル伝達、代謝の構造的理解とその応用	構造解析、植物ホルモン、植物調節物質	提供できる技術は、構造解析やイネを用いた分子育種学および、ピアコア等の分子間相互作用技術。融合研究してみたい研究分野は、有機合成ならびに分子イメージング技術	HP
澁谷 正俊 講師	典型元素果房物の特性を生かした化学選択的反応開発	アミノ酸、酸化反応、ホウ素	非天然アミノ酸の合成と酸化反応	HP
土屋 雄一郎 特任准教授	植物の寄生能力の解明	ストリゴラクトン、寄生植物、シグナル伝達、受容体	植物ホルモンの植物成長調整剤としての可能性、数理モデリングとの融合研究に興味があります	HP

